

ともに生きる

共生

中学校

高校

総合

学級活動

道徳

ハートネットTV  29分

シリーズ 相模原障害者施設殺傷事件 第2回 言葉はなくとも 重度知的障害のある人たち

(2016年放送)

この番組の良さ



「知ろうとすること」の大切さ

2016年の障害者殺傷事件の容疑者は、「意思疎通ができない人たちに刺した」と供述しました。ディレクターは重い知的障害の人たちについて自分がほとんど知らないことに気付きます。事件がなぜ起きたかよりも、まず障害のある人について知ろうとするところから番組は始まります。共生社会を実現するためにはどのような態度と行動が必要であるか考えることができます。

重度知的障害者の意思とは

ディレクターは重い知的障害に加え、体にも障害のある人が通う施設「青葉園」で谷野さんと出会います。取材を続ける中で、少し関わるだけでは分からない、谷野さんのはっきりとした意思を、取材者と共に視聴者も感じることができます。

番組活用のポイント

障害に対する理解の実態を踏まえておく

授業を行う前に、生徒たちが「障害」および「障害のある人」に対してどの程度理解しているか把握しておく必要があります。これまでに障害のある人と関わった経験の有無や、親族や知り合いに障害のある人がいるかどうかも授業を進める上で重要な情報となります。

また、一言で障害と言ってもさまざまな種類があり、同じ障害名でも人それぞれ状態が異なることなどの基本的な理解が必要になります。

障害のある人への支援とは

障害者施設では、施設に通う一人一人に寄り添った支援を行っています。支援とは世話をすることではなく、その人のことを真剣に考え、成長を支えること、望んでいる生活が何か模索し、支えていくものであるということが番組の中でははっきりと示されています。

障害者基本法には「障害の有無にかかわらず、等しく基本的人権を享有するかけがえない個人として尊重されるものである」という理念が示されています。障害のある人の支援を考えると、誰もが基本的人権を有しているという原点に立ち返ることが必要です。支援する側とされる側、互いを尊重しながら関わる大切さについて考えることができます。

人と人をつなぐもの

人と人との気持ちが通じ合うために大切なことが何か。番組では、重度の知的障害を持つ人との関わりから考えることができます。そして、最後には相手のことを知ろうとすること、分かろうとする気持ちが最も大切であり、それは障害の有無に関わらず、私たちが日々直面する人間関係にも当てはまることを理解することができます。

学習展開例

対象校種：中学校 授業時間 50分

対象教科：学級活動



向日市立寺戸中学校
教諭 鈴木英太

教諭

重度知的障害のある人の意思とは？ 人と人とのつながりについて考える



とせいのまね